

YAMANASHI
DISCOVERY
MAGAZINE

VOL.

03

2016

SUMMER

山梨

てて

teku-teku

くく



| 特集 |

富士につながる
織物の道を訪ねて。

山梨県の東部、郡内地域*は古くから織物業が盛んでここ西桂も「郡内織物」の産地として栄えてきました。富士山の伏流水を大切に使い、機を織る文化は、今もお息づいています。受け継いだ伝統を守りながら、新しい織物の在り方を模索していく西桂。未来につながる織物産地としての挑戦が始まっています。

*富士吉田市・西桂町・都留市・大月市・上野原市を含む一帯



▽日傘【菜-sai-】／株式会社横田商店
野菜をモチーフにした日傘。伸縮する糸を織り込むことで、傘を閉じたときと、広げたときの表情に変化が生まれます。差しても、持っても楽しい日傘。写真は左上から時計回りに、紫おくら、はくさい、どうもろこし、にんじん。

△シルクカシミアストール／武藤株式会社
昭和30年代の古い織機（しよっき）で丁寧に織られたストール。繊細で優しい肌触りは、バリでも注目を浴びています。



Teku-Teku
FEATURE

機織りの音が
聞こえる町「西桂」

『山梨てくてく』は
歩く速さでじっくりと
山梨の魅力を紹介していきます。
今回は県東南部の西桂を中心に『てくてく』。
富士講でにぎわった古き街道。
富士の清らかな湧水が流れる桂川。
長い歴史を誇る伝統の郡内織物。
こんな山梨があったんだ、と思える発見や感動を
富士山の麓で見つけていただけたらと思います。

てくてく
Teku-Teku
くく



CONTENTS

VOL. 03

【特集】
富士につながる
織物の道を訪ねて。

03
機織りの音が
聞こえる町「西桂」

08
千余年の星霜経て

12
「てくてく」食」
郡内織物産地で生まれた郷土の味。
民家で楽しむ「吉田のうどん」

14
「てくてく」住」
魅力を生かして街をデザイン。
人の交流とアートで進める地域活性化。

16
「てくてく」甲斐の国」
三つ峠駅



榎田 洋一さん

常務取締役

株式会社榎田商店 / 南都留郡西桂町小沼1717 / TEL. 0555-25-3113

▷晴雨兼用傘 [1866]

表生地は甲斐絹の伝統的な織りで、玉虫色のような光沢があり、見る角度によって色が変化します。内側にはカラフルな服地を用いることで、バリエーションが楽しめるデザインになっています。榎田商店の全てが集約された傘として創業年の「1866(イチハチロクロク)」と名付けました。



持つだけで、心華やぐ。
織物の魅力を咲かせる傘作り。

1866年創業の榎田商店は、郡内織物の老舗。現在は傘生地と洋服生地を主力とし、OEM(相手先ブランドによる生産)製品と自社オリジナル製品を手掛けています。

以前は、OEM製品が主だったので会社の名前が隠れていたのですが、産地の名前を知ってもらい、自社の価値を上げたいという思いから、長年培った織物技術や企画力を生かした自社ブランドをつくることにしました。

野菜をモチーフにした日傘など、傘の自社ブランドを立ち上げたのは今から4〜5年前。榎田さんは老舗としてのこだわりを語ります。

「生地デザイン、織り、傘の製造まで一貫して行っています。織物屋が作る傘ですから、傘生地を楽しんでいただき、差すことで気持ち華やかような傘を目指しています。

例えば、先染めは糸を染めてから織るので、絵柄に立体感があり発色も美しいです。裏から反転した生地の表情を見ることができると、織物が持つ魅力です」

無限の美しさを

傘に織り込む作り手の思い。

最新鋭の織機、柔軟な感性、そして職人の技、全てが溶け合って、独自性の高い国産傘は生まれていきます。「織物は、たて糸とよこ糸で作る単純な構造と言えるのか

もしれませんが、そこから生まれるものは無限です。『傘』という字は末広りの屋根の下に、『人』という字が集まっています。傘が出来上がるまでには、何人もの『職人』が関わっています。そしてその傘を使ってくださる『人』がいる。私はず傘という字に、そんな意味合いを感じ、丹念なものづくりへの思いを重ねています。そして、織物産地としての未来も広がっていくことを期待しています」

織物、温故知新。
古き織機に寄り添い、織りを極める。

戦後から織物業を営み、現在はストール、マフラーを製造する「武藤」の毎日、織りへの挑戦、研さんの日々だと武藤英之社長の奥さん・恵さんは言います。

「当社は平織りに、こだわっています。平織りは単純なようでごまかしが利かない難しい織りなんです。麻、オーガニックコットン、シルクカシミアなどの天然素材の風合いを生かし、肌に触れたときのふんわり柔らかい感触を出すには、工場であえて糸を紡ぐところから始め、仕上げの段階まで、手を掛け、目を配り、丹念に作っています。」

武藤が主に使っている古いシャトル織機は、ゆっくりとした動きで手作業に近い感覚があります。とても手間が掛かりますが、最新の高速織機では武藤が求める風合いは出せません。天然素材の極細糸は非常にデリケートですから、あえて昔ながらの古い織機を使っています。」

一枚のストールから広がる
世界を夢見て。

最近出展したパリの展示会では、武藤の生地を見たデザイナーから「ここまで細い繊維は見たことがない、この繊細な生地に私のデザインを入れてみたい」などの評価をいただいたと言います。2人の息子さん在家業を継ぐ道を選び、長男の圭亮さんは「思いの外、多くの引き合いをいただき驚いています。これからも伝統の技術を守り、それを応用しながら、新しいものに挑戦していきたいです」と力を込めます。

「女性はストール一枚で雰囲気が変わるもの。合わせる色で、顔色もすっと明るくなります。また、その人がもともと持っている魅力を引き出す力が、ストールにはあるように思います」。武藤の看板商品シルクカシミアのストールを大切そうに手にした恵さんは、優しい表情でほほ笑みます。



武藤 恵さんと長男の圭亮さん(右)・次男の巨亮さん(左)

武藤株式会社／南都留郡西桂町倉見113／TEL. 0555-25-2814



千余年の 星霜経て

郡内織物があやなす世界



郡内織物の象徴。絵甲斐絹の美しき存在感

浮世草子の創始者で知られる井原西鶴の作品にも登場する『郡内縞(じま)』と呼ばれる郡内の名を冠した織物。江戸時代、郡内織物がブランドとして、高い評価を得ていたことが分かる。山梨県富士工業技術センター主任研究員の五十嵐哲也さんは語ります。

「米が思うようにとれなかった郡内地域では、布を織って、それを現金化して年貢を納めていました。しかし山奥の産地ですから商売には不利でした。どうすれば商人が買い付けに来てくれるだろうかと考え、たどり着いた答えは軽くて持ち運びが楽であり、価値の高い上質な高級生地を作るということだったと思われます。そこに生まれたのが後に『甲斐絹(かいぎ)』と呼ばれるようになる優れた郡内織物です。郡内は千年以上の長きにわたり、織物に携わってきた歴史を持つ地域ですから職人の腕も良く、郡内織物は誰もが知る存在となりました」

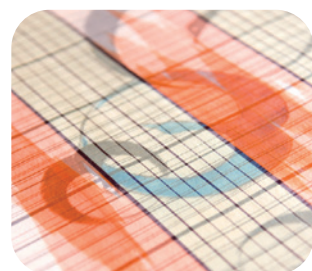
奢侈(しゃし)禁止令により、ぜいたくは敵とされ、表地に絹を用いたり、派手な色を使ったりしてはいけないとされた時代がありました。「これを機に、おしゃれを楽しみたい人は、羽織の裏地として美しい甲斐絹を好んで使うようになったのです。織機の上で、たて糸に型染めする技法で織る絵甲斐絹は、透けるくらい薄い一方、しっかりと張りがあります。たて糸とよこ糸の妙により生み出される花鳥風月や歌などをイメージした絵柄には奥行きが感じられ、その美しさは日本画や浮世絵にも通じるものがあるように思います。歌舞伎や浄瑠璃の演目に合わせた裏地の羽織を着て舞台を見に行くような、粋な人もいたことでしょう。明治時代には、夏目漱石の『虞美人草』にも登場するほど、甲斐絹の名は広く知られるようになりました」

絵甲斐絹とは、織機の上で、たて糸に型染めをする技法で、世界的にも類を見ない郡内織物の特徴です。織り方は全て平織りで、半透明なレイヤー感により奥行きを演出できる優れた技術です。また、織られた生地はたて糸とよこ糸で立体構造をしているため、見る角度によって布の表面の表情が変化します。



印籠

横縞模様は部分的に赤くなったり紺になったりするように、同じ糸を2色に染めたかすり糸を使っています。絵甲斐絹と、かすりの二つの技法を組み合わせ、一つの作品になっています。



鶴と夕焼け

あらかじめ糸を染めた、たて糸で縦縞を入れ、型染めで鶴を描いています。見る角度によって鶴がはっきり見えたり、夕焼けが濃く映えたりする中で、鶴の舞を楽しめる作品です。



松竹梅

松竹梅と風景、そして陰と陽を表現しています。この柄は逆さまに見ると昼と夜の表情になることが分かります。意匠に込められた知恵もまた絵甲斐絹の魅力です。

有限会社テンジン

富士吉田市下吉田7-29-2
TEL:0555-22-1860

山崎織物株式会社

南都留郡西桂町小沼1697
TEL:0555-25-2010

有限会社田辺織物

富士吉田市下吉田5644
TEL:0555-22-0039

武藤株式会社

南都留郡西桂町倉見113
TEL:0555-25-2814

株式会社榎田商店

南都留郡西桂町小沼1717
TEL:0555-25-3113

株式会社前田源商店

富士吉田市下吉田2-25-24
TEL:0555-23-2231



ヤマナシハタオリトラベルは
郡内織物事業者有志により
2012年に結成されたグループ

活動はfacebookで発信中!

ヤマナシ ハタオリ 検索

宮下織物株式会社

富士吉田市新屋1515-1
TEL:0555-22-8870

株式会社甲斐絹座

富士吉田市下吉田2-25-24
TEL:0555-23-2280

舟久保織物

富士吉田市小明見2016
TEL:0555-22-2684

有限会社羽田忠織物

富士吉田市上暮地3-7-26
TEL:0555-22-4584

有限会社渡小織物

富士吉田市下吉田5826
TEL:0555-22-1885

光織物有限会社

富士吉田市松山1-4-13
TEL:0555-22-1384

受け継いだ伝統と新しい感性の融合。 産地としての誇りが切り開く未来

「戦後になると洋装化が進み、郡内産地は傘地や高級夜具地、婦人服地、ネクタイ地などの生産に移行し、ブランド製品の受託生産を行うOEMを主とする事業形態となりました。しかし、作り手の名前を表に出すことができないことから、郡内は織物産地としての名を世間から忘れられていったのです」

その後、輸入製品が台頭し、OEMの生産は減少の一途をたどり、産地としての知名度を失った郡内の織物産地は厳しい時代を迎えました。しかし、世界に誇るべき職人の技術が失われることはありませんでした。

「郡内織物は工程が細かいため、古くから撚糸や染めなどさまざまな専門職人による分業がなされ、家業としてその技は伝承されてきました。どれか一つでも欠けたら成り立たない結び付きは、まるで生態系のような感じは感じていきます。郡内織物は専門職人たちの力で築きあげられていったものなのです」

そんな産地としての誇りは若い世代にも引き継がれ2012年には「ヤマナシハタオリトラベル」というグループが結成されました。「未来を切り開く志と感性を持った若手機織り職人たちが集結し活動を始めたのです。郡内織物産地は今、新しい時代を迎えようとしています」

富士山の麓、美しい織物産地「郡内」。千余年の星霜を経て、守り続けられた織物の灯がここにあります。

ヤマナシ
ハタオリ
トラベル
— MILL SHOP —

ヤマナシハタオリトラベル MILL SHOPは、世界でも有数の技術力を持つヤマナシハタオリ産地から、職人が丹念に織り上げたプロダクトを直接お届けするアンテナショップです。

営業時間：10:00～20:00[年中無休]

出店場所：富士山駅ビル Q-STA[キュースタ]1F
富士吉田市上吉田2-5-1

アクセス：電車：富士急行富士山駅 直結 車：河口湖ICから7分
問い合わせ先：TEL. 0555-22-1860 [ハタオリトラベル QSTA](#) 検索



ヤマナシハタオリトラベル MILL SHOPは、工場を意味する「MILL」と織物産地ヤマナシを「見る」の意味から名付けられています。



富士につながる道には、機織りの文化が息づいている



山梨県富士工業技術センター 主任研究員 五十嵐哲也さん



「亀の手」と呼ばれるご主人の手。指先まで力を込める麺作りの作業で、まるで亀が首を伸ばしたような形になっている。



郡内織物産地で生まれた郷土の味。民家で楽しむ「吉田のうどん」

白須うどん | 店主 白須 正巳 さん

機織りをする女性を支えるために男性が腹持ちのいいうどんを打ったのが「吉田のうどん」の始まりです。

吉田のうどんは、古くから織物の産地として栄えた富士山の麓、富士吉田市で生まれた郷土料理です。細かい作業が必要となる機織りは女性の仕事。そうした女性を支えるために、男性は食事担当として、うどんを作るようになりました。力の強い男性が打ったので、コシが強くて腹持ちのいい麺が、吉田のうどんの特徴となったのです。吉田のうどんには特に定義はないのですが、織物産地の歴史の一つとして、確実に受け継がれています。

富士山のおいしい水を使い、手間暇かけて作る麺が自慢です。

当店の具材は先代からずっとキャベツが主です。富士山麓はキャベツの産地ということもありますが、私が具材を増やさない理由は、麺そのものの味を生かしたい思いがあるからです。また、季節により変化する湿度や気温に合わせて水分量を微妙に調節するので、手先の感覚が勝負なんです。麺作りには、とにかく手間暇をかけていますから、どんなに頑張っても1日100食が限界ですね。

富士山のおいしい水も、味の決め手です。打つ、ゆでる、ゆで上がった麺を冷やすなど、全ての作



白須うどん

富士吉田市上吉田3296-1
TEL.0555-22-3555
営業時間：11:30～14:00
定休日：日曜日

Information

昼どきになると次々にお客さんがやって来て、テーブルが並んだ座敷でくつろぎながら、うどんを味わっています。

吉田のうどん マップ 検索



業で水を必要としますから、富士山の伏流水がふんだんに使えるのは、ありがたいことです。創業当初は麺の卸売業を営んでいましたが、地域の皆さんからお昼にうどんを食べさせてほしいと頼まれたのがきっかけで、自宅うどん店を始めました。当時から今日までずっと、のれんも看板もありませんし、家族が普段使っている座敷で召し上がっていただくスタイルも変わっていません。お客さんからいただく「ごちそうさま」の一言を励みに、歴史ある吉田のうどんを守り続けていきたいです。

やまなし暮らし支援センター

専門相談員が常駐し、山梨への移住や就職をお手伝い。就職・住宅情報をワンストップで提供。移住に関する相談会、セミナーなど各種イベントも開催しています。

■やまなし暮らしセミナー

- 6/ 5(日).....北杜市
- 6/12(日).....韮崎市
- 7/ 2(土).....甲府市

■甲斐適生活相談会

富士の国やまなし移住・交流推進協議会の会員が、住宅・不動産などの情報を移住・二地域居住希望者に提供。個別相談会もあります。

5/28(土)・29(日).....町田市文化交流センター

東京都千代田区有楽町2-10-1
東京交通会館 NPOふるさと回帰支援センター内
TEL.03-6273-4306 FAX.03-6273-4307
E-mail:yamanashi@furusatokaiki.net
利用時間:火~日曜日 10:00~18:00

やまなし暮らし 検索



八木さんがデザインした、地域活性化パンフレットと「SARUYA」のロゴマーク



八木さんと奥さん・エレナさんの笑顔でもてなす「SARUYA」

魅力を生かして
街をデザイン。
人の交流とアートで
進める地域活性化。

デザイナー
八木 毅さん 移住先/富士吉田市

富士山の裾野の街、富士吉田市に、外国人旅行者が宿泊する『hostel & salon SARUYA』があります。そこには、日々、旅行者に街の魅力を伝える八木さんの姿があります。

「学生の頃からずっとアートの勉強をし、大学卒業後はフランスに渡り、さらに7年ほど学びました。帰国後、地元静岡には戻らず東京でデザインの仕事に就き、そこで知りあったアーティスト仲間、富士吉田市の活性化に関わる仕事に誘われたんです。フランスでの経験を生かして地域の活性化に取り組みたい気持ちがありましたし、同世代の人たちとベンチャー的なものをやりたい思いもあり、2年前に富士吉田市へ移住してきました」

「『SARUYA』を手掛けたのは空き家を利用して何かやりたいと思ったからです。宿をつくるにあたっては、地域性があり、近所付き合いもできること、また、外国からの観光客は何を求めているかを考え、それに応えていける宿であることも大切にしました。富士山の生まれた年は『申(さる)年』といわれていることから『SARUYA』と名付けました」

「東京では会社員でしたから、与えられた仕事の中で、自分ができることを提案してきました。しかし今はフリーのデザイナーとして、自分からアプローチできることは大きな違いですね。伝統ある郡内織物を使った製品のデザインなど、さまざまな分野に携わるようになりました。今の感覚は、フランスに行った時と似ています。自分の意志で行くこと(移住すること)を決めたからこそ、道が開けたのだと思います」

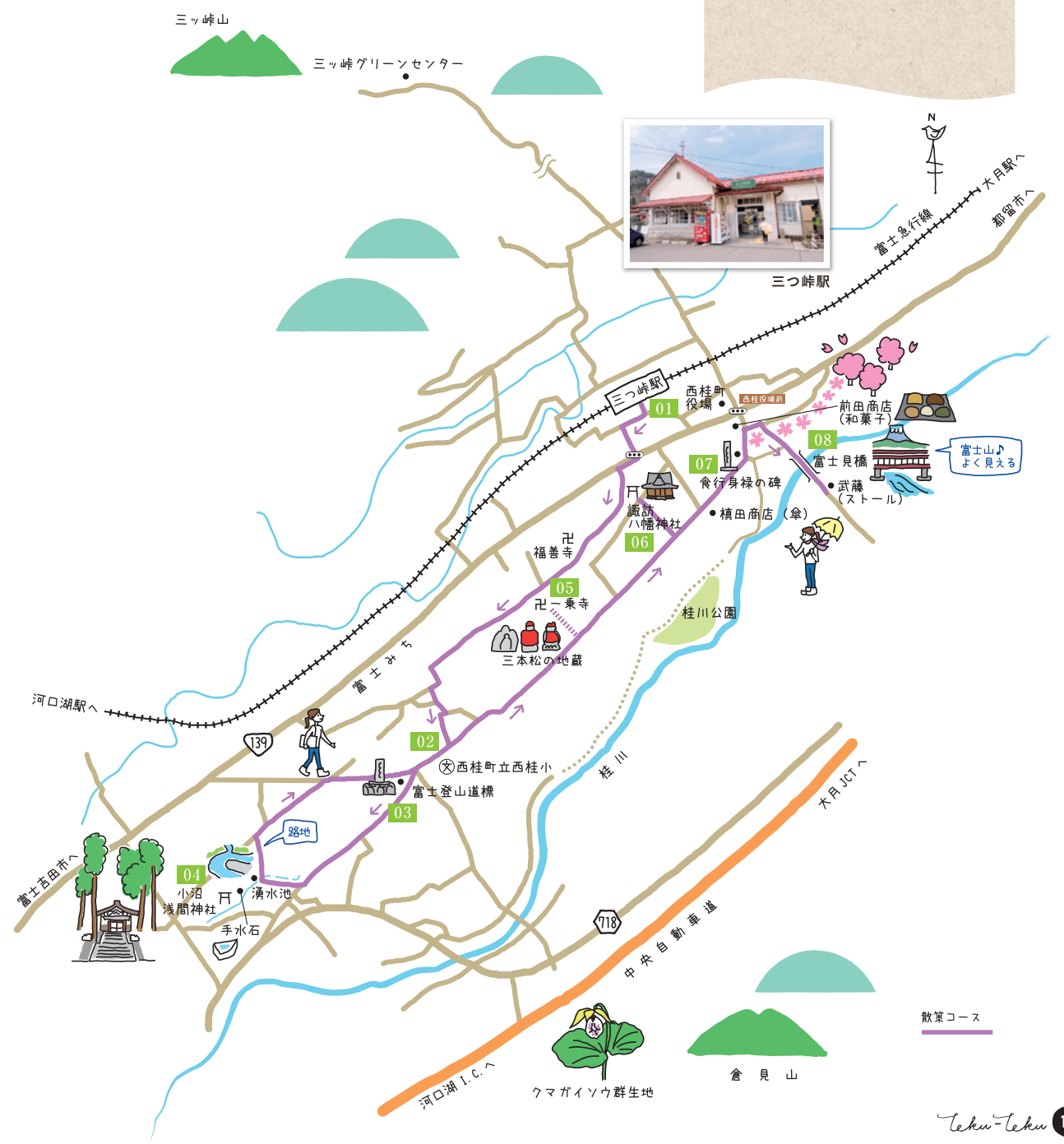
「富士吉田市に暮らしてみても、この街にはポテンシャルがあるなと感じるようになりました。この土地の自然や文化の良さを生かしたデザインをすれば、活性化につながると思います。そのために何か僕にやれることがあれば、関わっていききたいと思っています」



「SARUYA」のロゴマークが入り口でお迎え
hostel & salon SARUYA
富士吉田市下吉田3-6-26
TEL. 0555-75-2214

街道の駅からの小さな旅
てくてく
甲斐の国
—第3駅—三つ峠駅

富士山へ向かう富士急行線、その十番目の駅に降り立てば
神なる富士山は、もう目の前。
豊かな水音、カシャン、カシャンと機織りの音も聞こえてくる。
三つ峠の町、桂川と水路の町、織物の町…
古道「富士みち」の歴史が息づく、西桂をてくてくと…。



01 三つ峠駅

木造平屋建ての駅舎にある待合室は三つ峠山頂を目指す登山者たちの憩いの場となっている。



02 西桂小学校 近くの水路

桂川から引かれた水路が町中を網の目のように張り巡らされ澄んだ水が流れている。




03 富士登山道標

明治時代に富士登山者の宿場としてにぎわった宿通り。その分岐に「右方富士登山道」を標す石碑がある。



04 小沼浅間神社と湧水池

721年の創建で、富士山の神である木花開那姫命を祭っている。美しい湧水池は、富士信仰者のみそぎの霊場。



05 三本松の地蔵 (一乗寺)

かつて近隣の重要な富士山選擇地に建てていた。現在は、一乗寺境内に移され祭られている。



06 諏訪八幡神社

諏訪神と八幡神が祭られた国内でも数少ない神社。境内には珍しい丸石の道祖神もある。



07 食行身祿の碑

江戸時代、大ブームとなった「富士講」の行者・身祿は、当時の政治に抗議し富士山中で即身仏となり庶民に敬われた。



08 富士見橋から望む桂川と富士山

町の中心を流れる桂川。富士の恵みの水が流れゆく様は、富士山巡礼の玄関口とされたのに、ぎわしい眺め。



てくてく 歩きの中…

参道で遊んでいた地元の小学生たち。山々と、きれいな水の流れると、土地の神様に見守られ、素朴にのびのび育つ姿が、宝物のように見えました。



古道「富士みち」を歩いて旅すれば 富士山が、もっと大きく、尊く見えてくる

富士山の清らかな湧水が流れる「桂川」で水浴びをし、機織りの音を聞いて育った武藤啓子さんは、その郷土の川を「天のさかずき」と、たたえていました。それから、町を縦断している古道「富士みち」は「富士山の聖道」。聖なる道を挟み、真向かう「三ツ峠山」と「倉見山」は「富士山のこま犬さん」と言います。西桂の語り部・武藤さんの言葉に耳を傾けていると、西桂の自然や道、土地にまで、意味や役割がちゃんとあることが分かってきました。「古来から、富士山は憧れの御山ですから、それはもう、いろんな方が富士山を見に来たんですね。小説家、画家、写真家、登山家、植物研究者、あと外国の方も…」

まだ足で歩く時代、江戸方面から来る方は、必ずこの町を通って行かれたはずなんです。江戸から、大月、都留と苦勞して歩いて来ると、ここでようやく富士山がきれいに見えるんです。西桂からが富士山の遥拝所なんです。今のようには車でサーッと通り過ぎるのではなく、あちこちで足を止め、お団子を食べながら、ゆっくり富士山を眺めたのでしょうか。それから、小沼浅間神社の湧水地でみそぎをし、心と体をきれいにし、登る御山だったんですね。どんなに時代が進歩しても富士山を尊ぶ思いは誰しも変わらないはず。この町から仰ぐ富士山は、そういう御山。68年生きてきて、感じていることです」



〔西桂の語り部 武藤啓子さん(写真左)〕

「織物業をしながら、郷土史の掘り起こしにも一生懸命だった父の思いを、気が付くと受け継いでいた」という啓子さん。手作りが大好きな啓子さんは、縁起物の布飾りに西桂の自然や歴史を盛り込んでいる。そこには、郷土への慈しみと誇り、織物の里の伝統を愛する思いが込められている。



山梨へのご旅行におトクなきっぷのご紹介

えきねっとトクだ値

「えきねっとトクだ値」は、列車・席数・区間限定の割引きっぷです。

発売期間: 乗車日の1ヶ月前の午前10時から乗車日当日の午前1時40分まで

- 指定席がインターネットでラクラク予約! ● 窓口より早く受付開始! パソコン・スマートフォンなら乗車日の **1ヶ月** + **1週間前** からお申込みOK! (★)
- きっぷの受取りは指定席券売機でスピーディーに!

★実際の発売手配は、乗車日の1ヶ月前(午前10時)からとなります。 ★満席等の理由により、お席をお取りできない場合があります。

※通常のきっぷに比べ、変更・払戻などご利用条件に制限がありますのでご注意ください。

※小児価格もございます。

※きっぷのお受取り後の払戻には割引率分の手数料がかかります。

詳しくはホームページをご覧ください。

www.eki-net.com

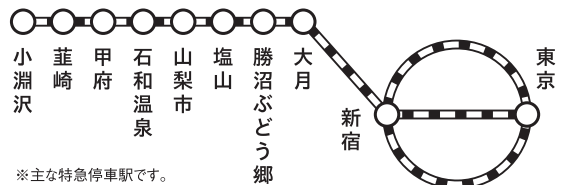
えきねっと 検索

「鉄道でめぐる山梨」Webサイトのご案内

山梨県の各駅から、徒歩や路線バス、レンタサイクルを使って観光スポットを巡る旅をご紹介します。



鉄道でめぐる山梨 検索 http://www.jreast.co.jp/hachioji/trip_yamanashi/



※写真・路線図はイメージです。※掲載内容は2016年4月現在の情報です。ご利用の際はホームページなどで最新情報をご確認ください。

山梨 **てくてく** *Te-ku-te-ku*
VOL.03 | 2016 SUMMER

平成28年5月1日 [季刊]
第3巻夏号

山梨県広聴広報課 発行 〒400-8501 甲府市丸の内1-6-1
TEL. 055-223-1339 FAX. 055-223-1525 制作 山梨日日新聞社



やまなし森の印刷紙
この印刷紙には、FSC®森林管理認証を取得した山梨県有林からの木材が使用されています。

山梨県